在宅医療論（Home Medical Theory）

担 当 教 員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
福田愛子、藤田孝、 多次淳一郎	１年次 前 期	必修	2	30	講義	あり	巻末掲載	可

授業概要（内容と進め方）及び課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法	我が国は超高齢化社会を迎え、これからの医療には在宅医療は必須となる。また、新規感染症の発生や流行に伴う病院受診を控える人々の増加など、通院や検診頻度の低下による傷病治療の遅れも懸念されている。これらの状況から、在宅医療の必要性はより高まることが示唆されている。従来、臨床検査技師は在宅医療への参加意義に乏しかったが、将来、重要な担い手の一員となることが期待される。本講では、どのような臨床検査機器が在宅医療に必要であるか検討するための学修をする。 課題に対するフィードバック方法／レポートに対して討論するほかコメントをつけて返却する。
授業の位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー①「臨床検査学の高度な知識と研究手法を体得し、臨床検査の質向上に向けた研究を遂行することができる。」及び②「専門職業人として医療に対する幅広い知識と技能を駆使し、高度な臨床検査を実践できる。」の達成に寄与している。
到達目標（履修者が到達すべき目標）	1.ライフステージに応じた健康支援を理解し、課題を明らかにし、解決法を検討できる。 2.特に高齢者を対象とした在宅医療の現状を理解し、課題を明らかにし、解決法を検討できる。 3.在宅医療における他職種連携に臨床検査技師がどのように関与できるかを明らかにし、具体的な方法論を検討できる。
時間外学習に必要 な学修内容および 学習上の助言	第1回～第15回事前学習：事前に計画されている単元について予習を行っておく／シラバスに記載された内容を調べておくこと。（各30分） 第1回～第15回事後学習：講義内容で不明な点は、講義終了直後もしくはオフィスアワーを利用して質問するなどして明確にするよう努める／担当教員が配布する資料で復習を行うこと。（各30分） ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（２単位15回科目の場合：予習+復習４時間／1回）（１単位15回科目の場合：予習+復習1時間／１回）（１単位８回科目の場合：予習+復習４時間／１回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

授業計画			
	第 1 回	人のライフステージに応じた健康支援の現状、問題点について	福田愛子
	第 2 回	在宅医療における他職種連携の現状、問題点について	福田愛子
	第 3 回	在宅医療における臨床検査技師の新たな必要性について	藤田　孝
	第 4 回	在宅医療における検体採取技術について	藤田　孝
	第 5 回	地域医療体制構築について	福田愛子
	第 6 回	在宅医療で用いられる臨床検査の概要（検体検査領域）	藤田　孝
	第 7 回	在宅医療で用いられる臨床検査の概要（生体検査領域）	藤田　孝
	第 8 回	POCT装置の現状と問題点	藤田　孝
	第 9 回	イムノクロマト法を用いた簡易検査キットの現状と問題点	藤田　孝
	第 10 回	新たなPOCT装置、簡易検査キット開発に向けて	藤田　孝
	第 11 回	在宅医療のアウトカム　暮らしの継続という視点から	多次淳一郎
	第 12 回	在宅医療の課題と対策①　再入院に関する研究動向から	多次淳一郎
	第 13 回	在宅医療の課題と対策②　異変の早期把握に関する研究動向から	多次淳一郎
	第 14 回	在宅医療の課題と対策③　在宅における意思決定と医療情報	多次淳一郎
	第 15 回	在宅医療の課題と対策④　多職種協働と臨床検査技師が担う役割	多次淳一郎

評価方法 評価基準	レポートで評価する（100%）		
教科書	教科書は指定しない。	参考書等	文献等は適宜、紹介する。
学生への メッセージ	在宅医療は今後の臨床検査技師の業務上重要な位置を占めることが予想されています。 毎回の講義の復習を十分行ない、討議には積極的に参加することを求めます。		